『生徒会活動で思うこと』

柏原中学校三年　小西　響

まず、本題に入る前に、私が、なぜこの場にいるのかという、話をさせていただきます。

私は、去年、二年生の時に、実は、この「少年の主張」を聞きに来ていました。確か、その辺（指さして）の席に座って、発表を聞いていました。小学生が三人、中学生が二人と一団体、全ての発表が終わった時の私は、もう目からうろこ状態でした。特に、中学生の発表は、生徒会など、生徒自らが行っている取組を、堂々と語った発表でした。「大勢の人前に立って発表できる人って、格好いい。」、純粋にそう思いました。私は、小学生の頃は、人前で発表することが大好きでしたが、中学生になり、あまり人前に立つことが、好きではなくなりました。しかし、堂々とした発表にたいへん感化されて、その後、私は生徒会本部役員に立候補し、学校全体を見たり、考えたりする立場になりました。そして今回、この「少年の主張」に応募したという訳です。つまり、今、私がここにいるのは、去年ここ

で発表してくれた方々のお蔭であるということなのです。

さて、本題に入ろうと思います。私は、今通っている大好きな、柏原中学校について思うことを、お話ししたいと思います。

私が生徒会の本部役員になって、三年生を送る会や、生徒会オリエンテーションの生徒会行事を行ってきました。また、小学校の校門に立ってあいさつ運動なども行ってきました。そういった取組の企画、運営を行っていくときに、私には困ったことがありました。それは、無責任な言動をする人がいるということでした。こちらから、活動を呼びかけたり、お願いしたりすると、「だるい」とか、「いやだ」とか言って、周りの人のやる気を阻害したり、真面目に取り組んでほしい時に、遊んでしまったりするという、マイナスの言動に、たいへん悩まされました。そんなとき、先ほどお話しした、去年のここで発表を聴いた時のことを思い出しました。どの発表者も、みんな前向きで、プラス志向だったことを思い出したのです。マイナスの言動をする人がいたら、プラスの言動を言ってもらえるように努力しよう、真面目に取り組んでくれなかったら、しっかり取り組んでもら

えるように工夫をしよう、そう、考えられるようになりました。私自身も、プラス志向に変わっていったように思います。

九日前の、六月二十日に、私たちの学校の生徒総会が、無事終了しました。今年度は、「一心優心（いっしん・ゆうしん）、～広げよう、思いやりの輪～」というスローガンを掲げ、「いじめゼロの誓い」という、生徒全員の力で「いじめ」を根絶させようという、生徒が主体となった、いじめ防止の誓いを提案し、全会一致で承認されました。「いじめゼロの誓い」を読み上げたいと思います。

今、私たちの学校には、大きないじめはありません。しかし、テレビや新聞などでは、いじめが原因で自殺したり、大きなけがを負わしたりする報道が、なくなることがありません。柏原中では、この「いじめゼロの誓い」の四つの覚悟を生徒全員で意識して、相手をいじめることがない学校、もしいじめだと気が付いたら、すぐに止められる学校にしていきたいと強く思っています。

私は、生徒会の仕事に携われて、本当に良かったと思っています。この青少年健全育成大会に、感謝いたします。

生徒会役員の任期は、あと五か月ぐらいになりましたが、「いじめゼロの誓い」をもとに、いじめが起きないように、キャンペーン活動を行ったり、柏原の小中学生が、しっかりあいさつができるよう、あいさつ運動を行ったり、体育祭や音楽会を大成功させたりできるよう、学校全体を盛り上げて、生徒会の任期を全うしたいと思います。お時間がありましたら、どうぞ柏原中学校に足をお向けください。

